

京都での非日常体験

高橋カーテンウォール工業株式会社 代表取締役社長 高橋 武治

はじめに

昨今、社員旅行を企画しようにも、全体で平日に行くのが大がかりになるし、業務に支障をきたす。週末企画すると嫌がる人がいて、難しいなー、と企画できない会社/職場が大半ではないでしょうか？
当社もその一社だったのですが、先日、業界団体のイベントでそのハードルを越えることができたので、紹介します。

プレコンシステム協会

当社は高層ビルの外装をオーダーメイドでつくるPCカーテンウォール工法の業界団体・プレコンシステム協会(PCSA)に所属しています。業界規模約100億円、会員数12社と小規模ながら、東京大学の松村秀一先生、清家剛先生に長年指導いただきながら50年継続してきました。周年行事を開催することになり、私が実行委員長を拝命しました。
コンセプトは「会員各社の若手のためになり、楽しい経験ができる複数のイベント開催」。10年前の行事では設計事務所の方々をお招きして工法PRを試みたのですが、今一つ手ごたえを得られなかったもので、今回は割り切って内部のイベントにしました。
第一弾は国際文化会館で清家先生の講演&パーティー、第二弾は京都での勉強会でした。両イベントとも盛り上がったのですが、特に印象深かった京都でのイベントを紹介します。

京都での勉強会

京都での勉強会の流れは以下の通りです。

BIM※についての講演→妙心寺で庭や国宝を見学し、御法話をいただく→ミシュラン星付きの精進料理を堪能→下鴨神社でみたらし祭りに参加→京都で最もイケてるバーを貸し切って二次会。
翌日は建物見学(京都大学船井哲良記念講堂・船井交流センター、サントリーワールドリサーチセンターなど)。



写真-2 妙心寺での国宝「瓢鮎図(ひょうねんず)」解説

参加者は講師の芝浦工業大学の志手一哉教授、日建設計でBIMに詳しい安井謙介様、および会員各社の若手と記者の方々の総勢39人でした。

※BIMとは、Building Information Modeling (ビルディング インフォメーション

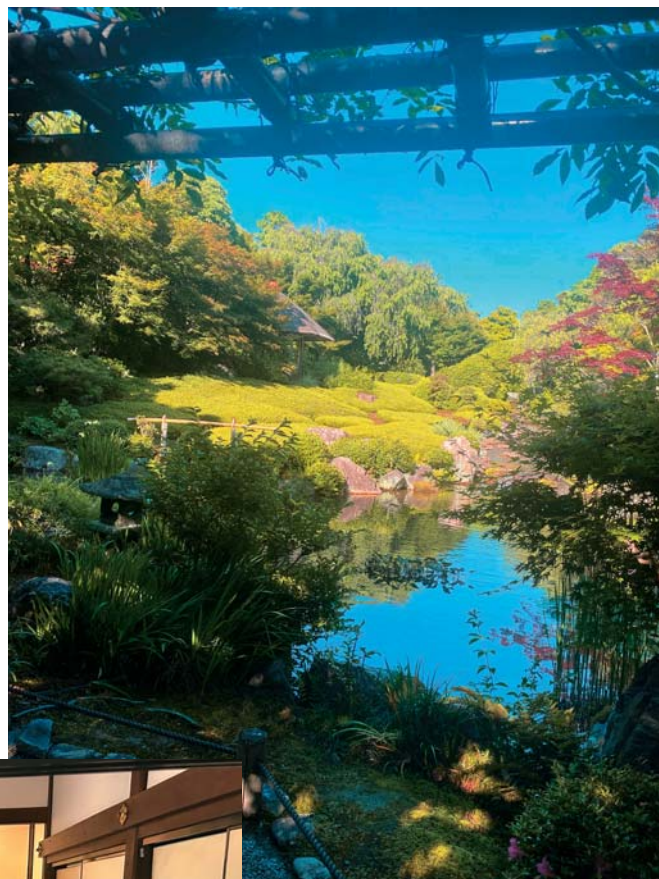


写真-1 妙心寺の庭から

モデリング)の略称です。コンピューター上に現実と同じ建物の立体モデル(BIMモデル)を再現して、よりよい建物づくりに活用していく仕組みです。データが完成すると、維持管理が容易になることが予想されます。一方、設計段階では最終案が固まるまでに形状/プランに紆余曲折があるので、その度にデータを入れなおしていると膨大な事務量が発生するため、現状の二次元データで図面をつくる方が効率的です。オーダーメイドで外装をつくる当業界では、お客様であるゼネコンのリクエストに応じてBIMに取り組んでいます。発生

するコストを100%もらえるとは限らず、コスト/手間の増加に耐えながら、効率化の恩恵が来る日を待っています(しかし、われわれの努力不足のせい、その道

筋が見えず、負担感のみが重くのしかかっているのが実情で、そのことをBIMを推進している講師にお伝えできたのは二次会になってからでした)。

いずれも非日常体験だったのですが、特にやってよかったと感じたのが二次会でした。メニューをみていると一杯3,000円のウイスキーなどがあり、6,000円の予算をオーバーしそうだな、と感じたので予算を伝えてその中でやってもらおうかと考えたのですが、「せっかくなので、言わずにやりましょう」という幹事の声を採用して、協会持ちのみを伝えて開催しました。

奥の個室で先生方としばらく過ごして、手前の広いゾーンに移動すると各テーブルにシャンパンボトルがドンドン。フードもふんだんに注文しており、「おー、これは軽く予算を超えるなー」と思って過ご



写真-3 精進料理の前菜



写真-4 下鴨神社の鳥居前にて



写真-5 勉強会後の集合写真

しました。みなさん本当に楽しそうに過ごしていたし、ある部屋では講演内容について講師とホンネで激論していました。
最後の会計では結局1人10,000円ぐらいとなりましたが、4時間の貸切でこの値段ならむしろ安いなと感じました。

各社、採用/定着率向上に苦心されていると思います。こうした非日常を体験できるイベントをこまめにやることで、若手が、この会社/業界に入ってよかったなー、となるかもしれません。ご検討されてはいかがですか？

たかはし・たけはる



【著者略歴】

1972年 東京都生まれ
1996年 東京大学法学部卒業
株式会社第一勧業銀行(現 株式会社みずほ銀行)入行
2000年 高橋カーテンウォール工業株式会社入社
2003年 米Duke大学MBA取得
2004年 同社代表取締役就任(現任)
2016年 日米リーダーシッププログラム終了